

有限会社 阿寒グリーンヒルファーム

■ 作業の効率化、生産性向上に向けた取り組みを展開



〈法人の概要〉

所在地: 〒085-0205 釧路市阿寒町東栄 14 番地 1

代表者: 代表取締役 鈴木忠

構成員: 2 名 (構成農家 1 戸)

役員: 1 名 常時雇用者: 9 名

設立: 平成 7 年 3 月 資本金: 300 万円

事業内容: 酪農 / 農作業受託

牧草 145ha、デントコーン 41ha、乳用経産牛 301 頭、
乳用育成牛 195 頭、年間生乳生産量 2,681t
(H23 年)

経営面積: 186ha

売上高: 2 億 8,251 万円 (H23 年) 交付金も含む

電話: 0154-60-8230 FAX: 0154-60-8231

〈法人のあゆみ〉

平成 6 年	法人に向けた計画策定開始
7 年	有限会社阿寒グリーンヒルファームを 3 戸で設立、公社営事業により施設建築
8 年	現在地で営農開始 (乳牛総頭数 130 頭、うち搾乳牛 120 頭) 8~9 年にかけて市場から 200 頭導入
11 年	従業員の雇用開始
12 年	哺育牛舎新設 (哺育ロボット導入)
14 年	2 戸が引退したため、1 戸の形態に移行
15 年	自走式ハーベスター導入
19 年	雑排水処理施設新設、牛舎増築
22 年	平成 21 年度第 14 回草づくりコンクール「北海道草地協会会長賞」受賞 平成 21 年度第 14 回草地畜産コンクール「草地畜産種子協会会長賞」受賞

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- 平成 6 年にいとこ同士 3 名で各経営が持つ問題解消するため共同経営による法人を目指すこととなった。各戸の問題とは、施設の老朽化による建物の更新、後継者問題等であり、それらを解決するため、協業法人化によりコストの低減を図りつつ大規模化する必要があった。当時、地区で公社営事業が実施中だったこともきっかけの一つとなった。設立に関しては、基本的なことは自分で調べた上で、農協等の関係機関と相談しながら進めた。
- 検討から法人設立まで半年ほど要し、平成 7 年 3 月に有限会社阿寒グリーンヒルファームを 3 戸で設立。個人で所有していた農地は全面借入とし、3 戸が飼養していた搾乳牛 120 頭で営農を開始。設立自体はスムーズに進んだが、施設用地の造成にあたり、牧草地等の農地を維持するため、所有していた林地を開発することとしたが、林地開発許可に長い期間を要した。また、法人としての実績がないため、資金の借入にあたり、保証協会の審査、担保設定に時間がかかった。
- 公社営事業の活用により施設を建築し、平成 8 年 4 月から現在地で営農をスタート。平成 8~9 年にかけて市場より 200 頭を導入し、平成 11 年には従業員の雇用を開始。平成 12 年に哺育牛舎を新設し、省力化を目指すために哺育ロボットを導入した。
- 平成 14 年に 2 戸の構成員が引退したため、1 戸による経営に移行したことから、従業員を雇用する形態となり、平成 23 年現在の常時雇用者は 9 名となっている。
- 高品質粗飼料の確保、自家製 TMR を細分化した給与、土壌分析を実施した施肥管理などの取り組みが評価され、平成 22 年 3 月に (社) 北海道草地協会主催の草づくりコンクールで北海道草地協会会長賞、同年 6 月に (社) 日本草地畜産種子協会主催の全国草地畜産コンクールで草地畜産種子協会会長賞を受賞。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・共通の認識を共有することが難しいため、作業終了後のミーティングを行うことにより対応している。
- ・従業員を雇用しているが、それぞれの個性を把握し、使っていくことが難しい。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・農繁期を除き、5日勤務1日休みのローテーション勤務とし、休みが取れるようになった。
- ・社会保険等の福利厚生を充実させることができたようになった。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・個人経営の感覚から脱却し、法人としての経営感覚を身につけ、経営を継続させられるように資金繰りに注意すること。
- ・小さいことでも取り決め事は書類にしておくこと。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・先進的な法人の事例を数多く視察し、その法人の良い点を取り入れていくことが重要。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・福利厚生の一環として、敷地内に従業員用住宅2戸を用意。
- ・従業員の勤務時間は、次のシフトの組み合わせによって行われている。
①4:40~8:30 ②9:30~12:00 ③12:30~15:30 ④15:30~19:00
勤務パターン1 ①+②+④ 勤務パターン2 ①+③+④
- ・作業機械等は常に整備点検・清掃等を行い、故障や損傷による経費の削減を行っている。
- ・農作業未経験者を雇用するようになってから、作業ミスを防ぐため、作業記録の記帳・日報による業務の引継を行うことにより治療牛等の把握に努めている。また、飼養牛の出生からの記録を保存し、過去の経過も把握している。作業機についても作業機械毎に記録簿を作成しており、ほ場毎の堆肥散布量・収穫量を管理している。
- ・土づくり、草づくりに力を入れるとともに、トラクターにGPS誘導による自動操舵システムをつけて肥料散布の効率化を図っている。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・施設、頭数規模は現状維持を考えている。
- ・優秀な人材の確保のため、従業員の労務環境を整えるとともに、人材教育を行っていきたい。「ぜひ阿寒グリーンヒルファームで働きたい」といわれるような働きやすい環境作りを目指している。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0154-60-8230 (担当: 代表取締役 鈴木忠)